

あたりまえのことほどむつかしい

あなたのおばあちゃんに、どんな医療をしてあげたいですか。
腰が痛く、肩も上がらず、血圧は高く、胃の調子も悪い。しかも最近物忘れが多いおばあちゃん。

何時間も待たなければいけない病院へ行き、有名な専門医に診てもらいますか。
脊椎専門整形外科、上肢専門整形外科、循環器内科、消化器内科、精神科？

そのおばあちゃんが肺炎になってしまい、治ったけれど歩くのが大変になりました。
さらに呼吸器内科も受診しますか？

あなたなら、自分で診てあげられる部分を診てあげたいと思いませんか。

でも、ちょっと待ってください。

おばあちゃんの状態を診て、ここまでは大丈夫、ここからは危ないと言えますか？
自信と責任を持って判断できますか？
そして冷静に、論理的に、家族にも説明できますか？

それが総合診療科の **技** です。

おばあちゃんをいきなり施設にいれますか？
それとも、周囲の状況にながされず、おばあちゃんの生き方を尊重しますか？
家族の負担まで責任を持てますか？

それが総合診療科の **心** です。

病気を治すのではなく、おばあちゃん的生活の質を上げる治療とケアができますか。
本人が自分なりに歩けるように、転ばないように、いろいろなスタッフに協力してもらえますか？

それが総合診療科の **力** です。

総合診療科に来てみませんか。

患者さんのためって？

「患者さんのため」の医療って何だろう
総合診療科は、ずっと、問い続けてます。

世界も足元の医療も、日々変わります。
働き方も、生きがいも、学び方も、名前までもが。
「患者さんのため」って何だろう？と疑問に思うたびに
同僚と話ができるのが当科です。

おそらくあなたより年上の患者さんは、
よかったり、つらかったり、でこぼこの人生を歩んできました。

あなたも私も、そんな患者さんに敬意を持って接します。

いつでも、どこでも、どんな患者さんでも、来た人に、腹をすえて向き合い徐々に、徐々に寄り添い、ほどよいところで手を離してゆく、あるいは見届ける。

初心は、ここです。

あなたの医者人生の中で、夢中に突き進んだり、時々丸まって休んだり、
医療の世界でおおらかになれたり、頑なになったりして、
あなたも私も、否応なく、変えられていきます。

だから肩の力を抜いて、本当に大事なことを見つめましょう。

どうぞ総合診療科へ。